

## どこでどのように漁獲されているのか？

### —複数の漁業種類による漁獲分布—

木下貴裕（日本海区水産研究所）

底曳き網漁業は複数の魚種を対象とした漁業である。しかし一方では、底曳き網は水深、底質及び主対象とする魚種によって多様な発展をとげ、日本海南西海域では複数の底曳き網漁業が存在する。具体的には沖合底曳き網と小型底曳き網、また1そう曳き、2そう曳きなどに分かれ、漁獲統計も別個に作成されている。研究の対象とする魚種が1つの漁業でカバーされていれば、資源変動をその漁業の指標によって把握しても良いが、複数の漁業によって利用される魚種の場合は注意して取り扱う必要がある。

今回の研究の主対象であるソウハチの場合、多くは沖底1そう曳、沖底2そう曳及び島根県の小底によって漁獲される（図1）。その漁獲量の年変動には類似性が認められる場合もあり、ある年級群の豊度が複数の漁業に影響を与えていることを暗示させる。

一方、各漁業の漁獲位置を結合させて近年のソウハチの漁獲量分布を描くと（図2）、浜田沖から隠岐諸島西の比較的沿岸に近い海域で島根県の小底による漁獲量が多い事、これ以外では水深200mよりやや浅い水深で沖底1そう曳の漁獲が多い。

日本海南西海域での各種底びき網の基本的な分布は、沿岸域では小底、陸棚の浅い海域では沖底2そう曳、陸棚の深部から斜面域にかけては沖底1そう曳が操業している。ソウハチはこれらの海域を跨って分布（回遊？）する魚種であり、研究及び漁業管理の面からもソウハチという魚種の全体像を把握しながら推進する必要がある。

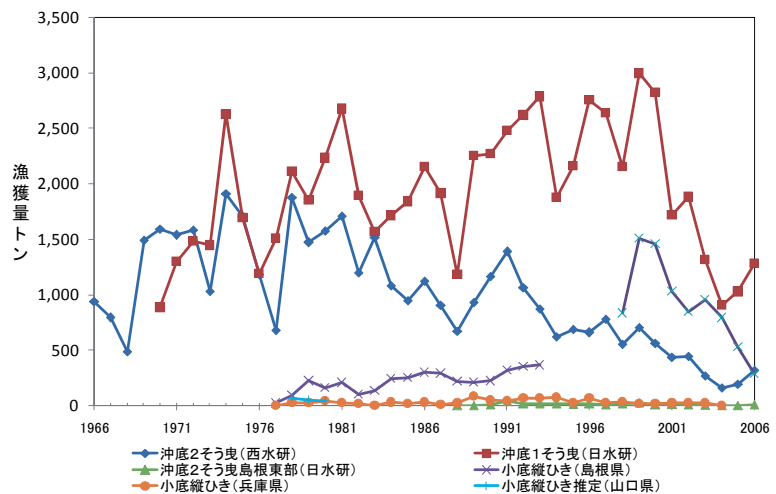


図1 日本海南西海域におけるソウハチの漁業種類別漁獲量

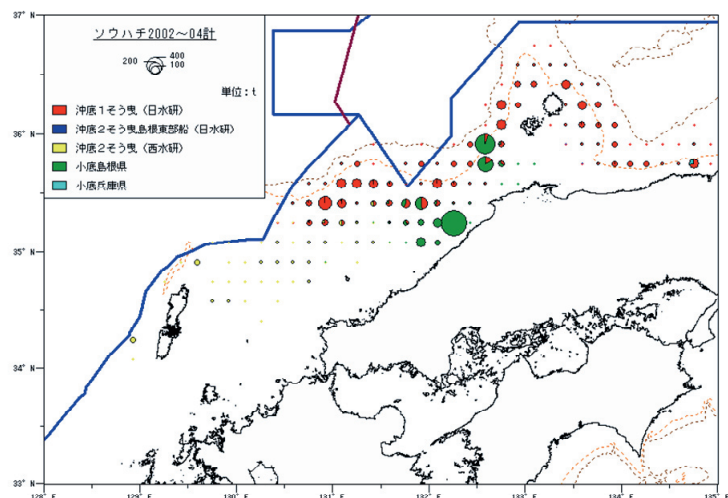


図2 各漁業種類によるソウハチの漁獲量分布(2002～2004年の合計)